

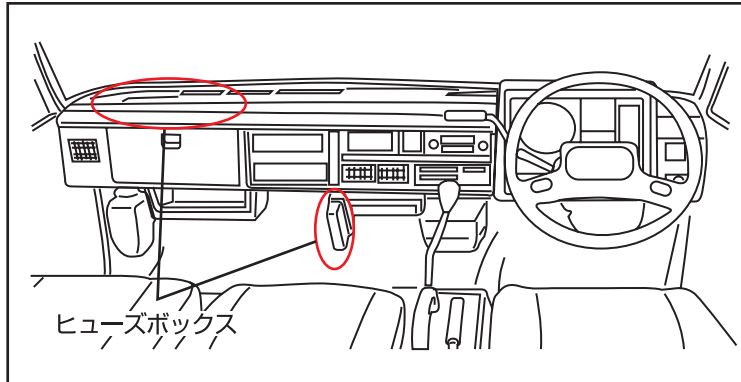
○大型車両への取付け

1) プラス電源の装着方法

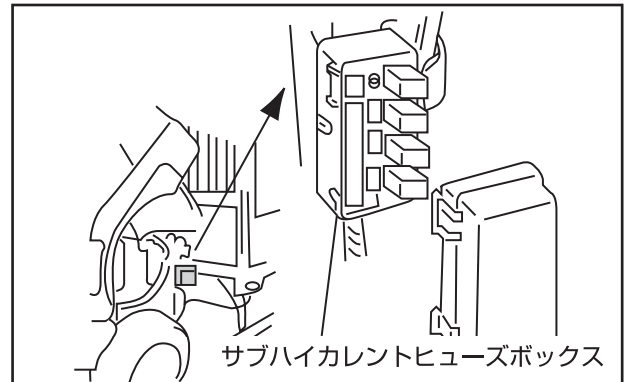
大型車両などは、バッテリーまでの距離が遠く取扱い説明書通りにプラス電源をバッテリーに装着できない場合があります。このような場合は、テスターで検電を行い、フロント周りの常時電源のプラスを取得し接続してください。電源の取得は、1箇所から取得してください。(バラスト始動に必要な容量15A)

取付け例

例1 テスターを使い、車両フロント室内にあるヒューズボックス裏の配線の検電を行い、イグニッションOFF時でも常時プラス電源が供給されている箇所を確認しコントロールハーネスAのプラス電源を接続。



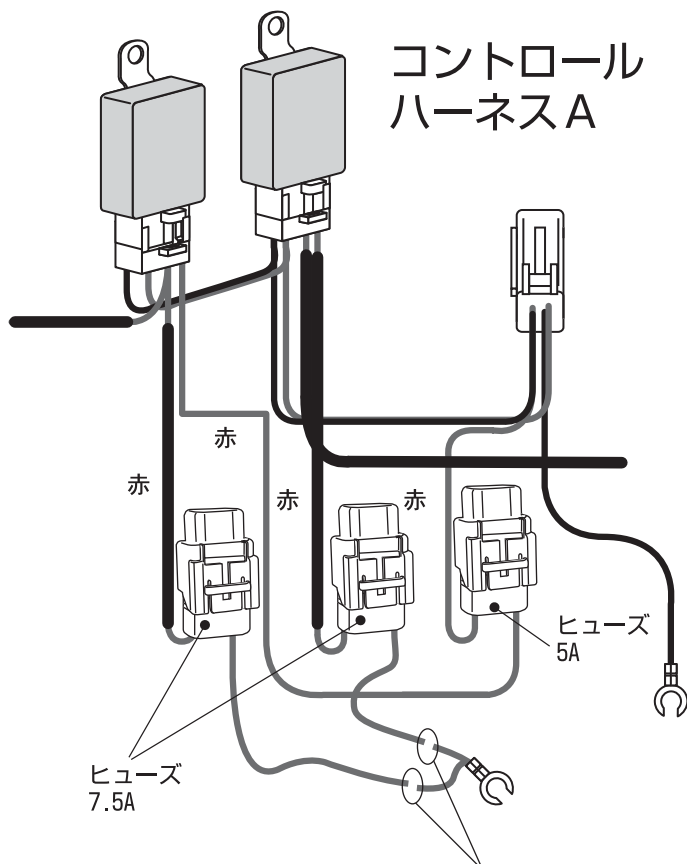
例2 バッテリーからヒューズケースの中間にあるサブハイカレントヒューズボックスからコントロールハーネスAのプラス電源を接続。



※車両により設置位置が異なりますので、車両サービスマニュアルを参照の上、接続してください。

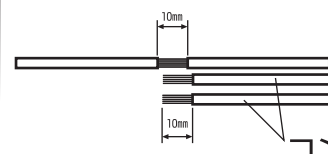
電源取得場所の条件

- 1) イグニッションOFF時でも常時プラス電源が取得できる配線。
 - 2) 安定した電源が確保できる配線。
 - 3) ヒューズより前の電源配線
 - 4) 15A以上の電流が確保できる配線。
 - 5) 3sq以上の配線
- ※車両サービスマニュアルを参照の上、配線を接続してください。

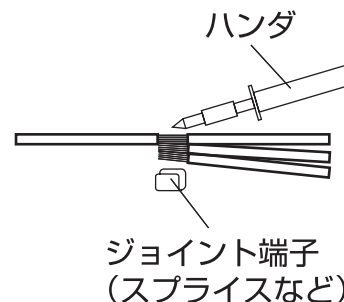


車両側配線

- 1) 接続する配線の被ふくを10mm位むく。
コントロールハーネスA(赤線)の切断した配線の先端を10mm位むく。



- 2) 被ふくをむいた配線をしっかりと、ハンダとジョイント端子などで確実に接続してください。接続後は、絶縁テープで確実に絶縁してください。



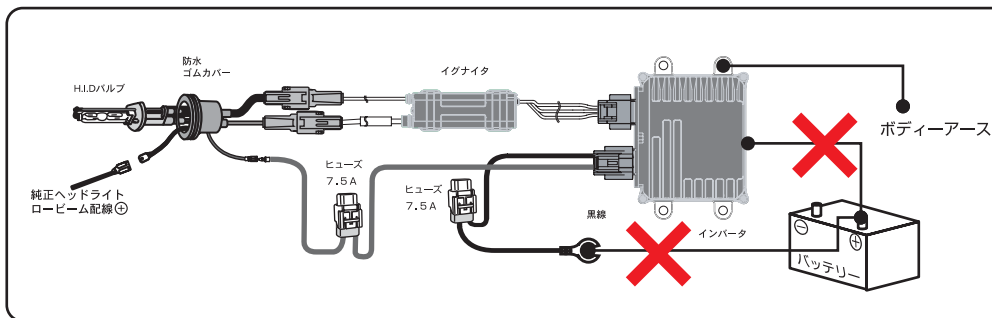
配線を切断してください。
この配線がプラス取得線になります。

○HIDシステムの取扱い注意事項

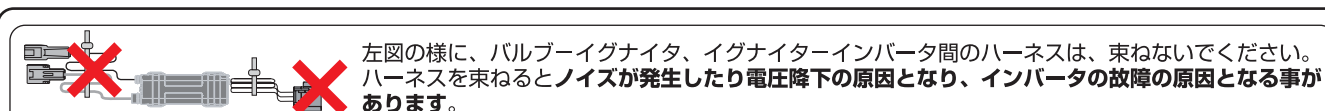
1) HIDシステムの取扱い

HIDシステムの点灯確認、取り付けの際、製品にプラス、マイナスの電位を接触させてしまうと、インバータ故障の原因となります。作業を行う際、十分注意して作業を行ってください。

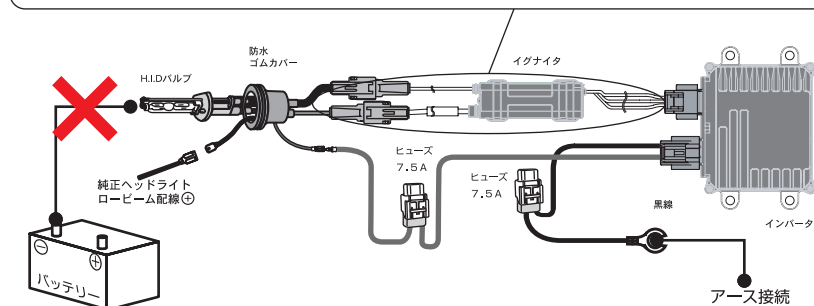
下記の取扱いにより故障した場合、**保証対象外**となります。



左図の様に、インバータケースにバッテリーのプラス電位が触れた瞬間にインバータの回路上で電源短絡状態となり、破損に至ります。他の電子機器のプラス端子にも触れることのないようご注意ください。



左図の様に、バルブ-イグナイタ、イグナイター-インバータ間のハーネスは、束ねないでください。ハーネスを束ねるとノイズが発生したり電圧低下の原因となり、インバータの故障の原因となります。



左図の様に、バルブ先端がアースに触れた状態で点灯するとバルブ先端の短絡によりインバータの回路が破損します。他の電子機器のマイナス端子にも触れることのないようご注意ください。

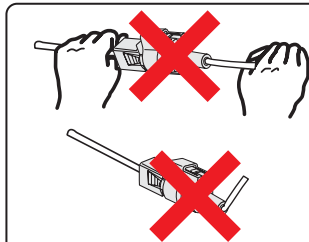
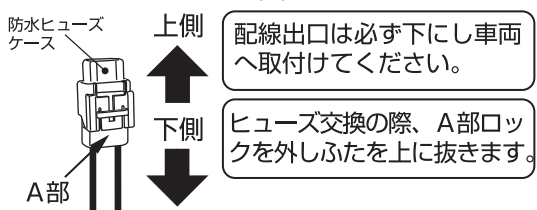
2) 防水コネクター防水ヒューズの取扱い

防水コネクター、防水ヒューズの配線を無理に引っ張ったり、コネクター根元から折り曲げないでください。

上記の様な事を行うと、防水コネクター、防水ヒューズの機能低下になります。

(ヒューズ及びリレーは水が掛からない部位へ装着してください)

○ヒューズケースの取付け



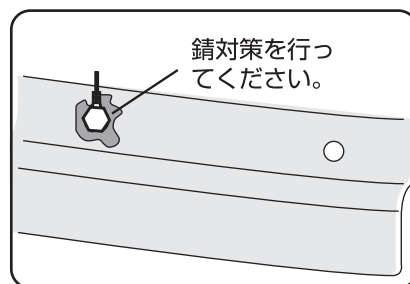
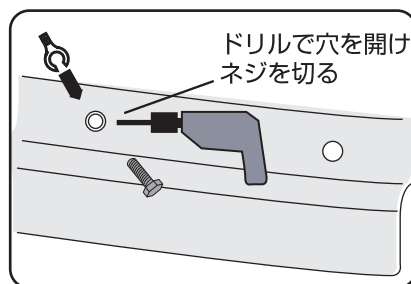
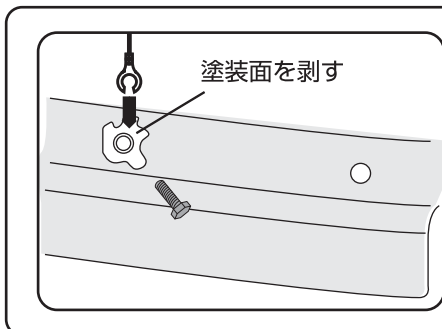
防水コネクター、防水ヒューズの配線を無理に引っ張ったり、配線が出ているコネクター根元から折り曲げないでください。防水性低下になり、コネクター内に水が入り、腐食の原因になります。

3) アースの装着方法

ボディアースを接続する場合、車体ベースの塗装膜が厚く導通し難い為、インバータ電源線、コントロールハーネスのアース線を接続する際は、車体ベースの塗装膜を剥し、アースを接続してください。

又は、車体ベースにドリルで穴を開け、ネジを切りボルトを固定し、アースを接続してください。

接続後、必ず、塗装を剥した部分、アースを接続した部分に錆対策(シリコン、塗装等)を行ってください。

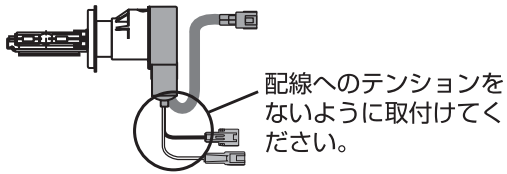


○H4切替タイプの取扱い注意事項

1) 切替式バルブの取扱い

バルブから2本出ているイグナイタへと接続される配線は、バルブスライド機構の部品と直結している為、少しでも引張ったり、押ししたりするとHi/Low切替が行えない場合がありますので、配線へのテンションをないように取付けてください。

○バルブ装着



右図の様に、バルブから出ているハーネスを無理に引っ張ったり車両ハーネスと束ねないでください。
Hi/Low切替が行えない場合があります。
配線を束ねるとノイズや電圧降下を起こし故障の原因となります。

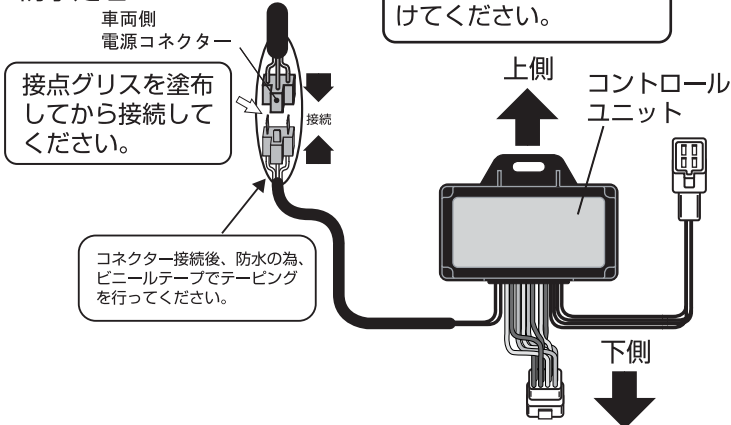


2) コントロールユニット、リレー、3極カプラーの取扱い

コントロールユニット、リレー、3極カプラー部は、防水ではありませんので、取付け方向、テーピング処理を行い水のかかり難い場所に設置してください。

リレー、3極カプラー部が腐蝕しHIDの点灯不良、動作不良の原因になります。

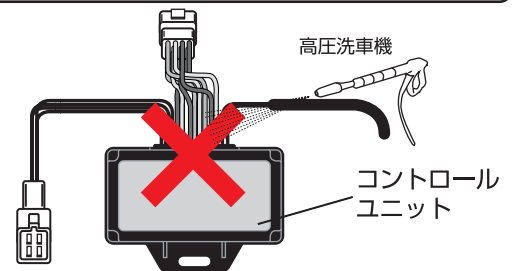
○コントロールユニット 設置方向、コネクター 防水処理



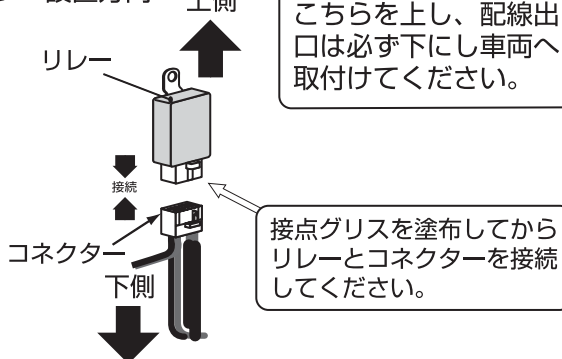
こちらを上し、配線出口は必ず下にし車両へ取付けてください。

○コントロールユニット取扱い

コントロールユニットは防滴処理はされておりますが、完全防水ではありません。取付ける場合、水が直接かかる場所や下図のような取付け方をすると、配線から水が入る恐れがありますので、配線出口は必ず下にしてください。
洗車の際、直接コントロールユニットに水を掛けしないでください。
コントロールユニットが故障するとHIDシステムが使用できなくなります。このような状況での故障は、保証対象外になります。



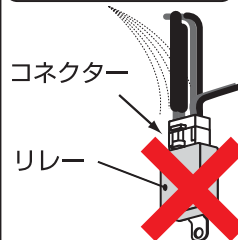
○リレー設置方向



こちらを上し、配線出口は必ず下にし車両へ取付けてください。

○リレー取扱い

水が直接かかる場所の取付けは行わないでください。



リレーは防滴処理はされておりますが完全防水ではありません。取付の際、水が直接かかる場所や左図のような取付け方は行わないでください。**コネクターに水が溜まり、端子の腐蝕、リレー、製品の故障の原因となり、車両火災の原因となる恐れがあります。**このような状態での故障は、保証対象外になります。